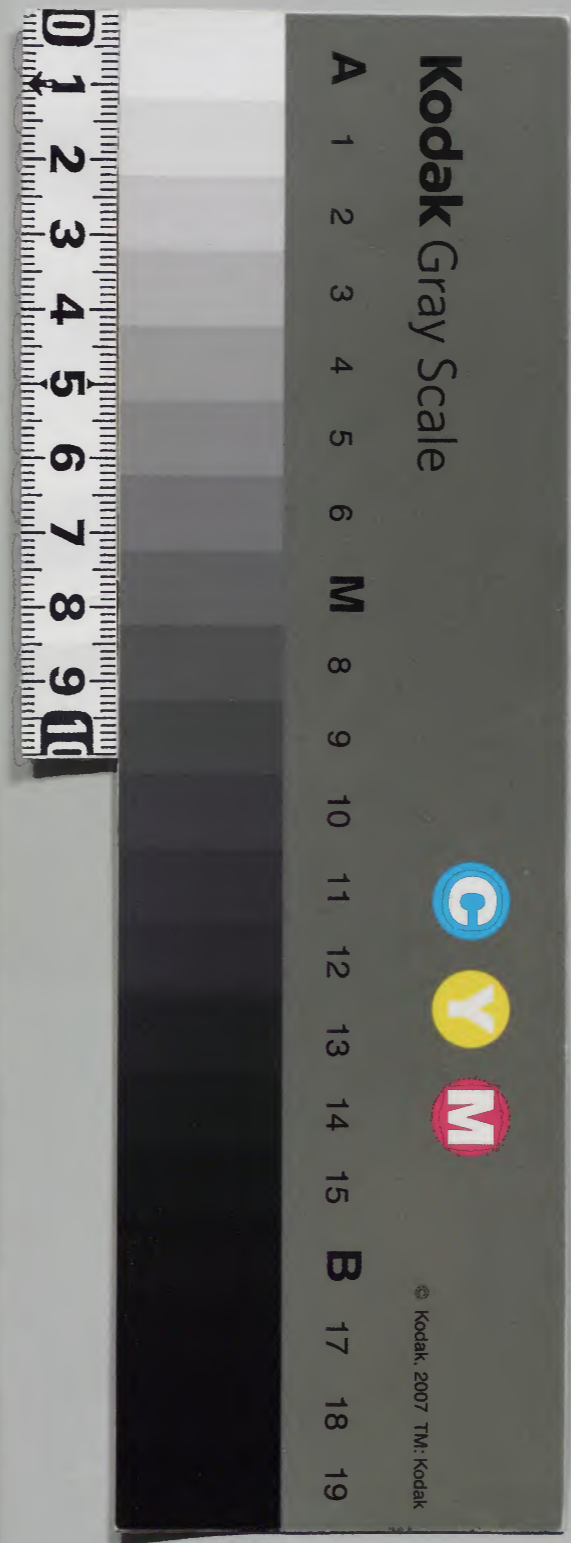


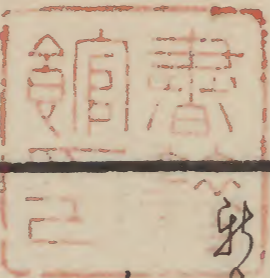
愛媛のあしこ 二

内閣文庫	
和書類	一八二二六
二〇〇函	其八冊
大架	(二)

内閣文庫	
番號和	18216
冊數	8 ( 2 )
函號	200 68



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



新古今集美濃のちかたや二の巻

紙類上

下ふそこを申す

町田久成献納之章

美濃文庫



かみかづみんそんしほのふの午向の杜ふ紙にまゝなり

紙類上  
かみかづみんそんしほのふの午向の杜ふ紙にまゝなり

かみかづみんそんしほのふの午向の杜ふ紙にまゝなり

最徳天皇後院の御子ふさふさの御子

秀能

吹風のまじりたる紙にまゝのちかたや二の巻

上二白紙類上  
吹風のまじりたる紙にまゝのちかたや二の巻



Handwritten text in Kuzushiji script, likely a chapter heading or introductory text.

Main body of handwritten text in Kuzushiji script, consisting of several lines of prose.

Main body of handwritten text in Kuzushiji script, continuing the narrative or discussion from the previous page.





袖二白ハ歌のころをばまふらち岸よりたゞし 雲の玉梳

らまふ御あり。 後拾遺小 天川をばまふらち岸のころをばまふらち

やまをばまふらち岸のころをばまふらち 歌詠

兼がまをばまふらち岸のころをばまふらち 兼がまをばまふらち

初まをばまふらち岸のころをばまふらち 初まをばまふらち

かまをばまふらち岸のころをばまふらち 左近中お良中

かまをばまふらち岸のころをばまふらち 式子月観主

かまをばまふらち岸のころをばまふらち 式子月観主

かまをばまふらち岸のころをばまふらち 式子月観主

かまをばまふらち岸のころをばまふらち 式子月観主

かまをばまふらち岸のころをばまふらち 式子月観主

かまをばまふらち岸のころをばまふらち 式子月観主

かまをばまふらち岸のころをばまふらち 式子月観主

かまをばまふらち岸のころをばまふらち 式子月観主

かまをばまふらち岸のころをばまふらち 式子月観主

かまをばまふらち岸のころをばまふらち 式子月観主

かまをばまふらち岸のころをばまふらち 式子月観主

かまをばまふらち岸のころをばまふらち 式子月観主

かまをばまふらち岸のころをばまふらち 式子月観主





Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise, written in a cursive style. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines across the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text from the previous page. It is arranged in approximately 10 horizontal lines. The script is consistent with the text on the adjacent page.

Handwritten text in cursive style, top line of the right page.

Handwritten characters, possibly a signature or seal, below the top line.

Second line of handwritten text on the right page.

Third line of handwritten text on the right page.

Small handwritten characters, possibly a signature or seal, below the third line.

Fourth line of handwritten text on the right page.

Fifth line of handwritten text on the right page.

Sixth line of handwritten text on the right page.

Main body of handwritten text on the left page, consisting of multiple lines.

秋の雲は

秋の雲は

宮内

秋の雲は白く霞みわたる  
秋の雲は白く霞みわたる  
秋の雲は白く霞みわたる  
秋の雲は白く霞みわたる  
秋の雲は白く霞みわたる

鴨長門

秋の雲は白く霞みわたる  
秋の雲は白く霞みわたる  
秋の雲は白く霞みわたる  
秋の雲は白く霞みわたる  
秋の雲は白く霞みわたる

秋の雲は白く霞みわたる

武子の秋

秋の雲は白く霞みわたる  
秋の雲は白く霞みわたる  
秋の雲は白く霞みわたる  
秋の雲は白く霞みわたる  
秋の雲は白く霞みわたる  
秋の雲は白く霞みわたる  
秋の雲は白く霞みわたる  
秋の雲は白く霞みわたる  
秋の雲は白く霞みわたる  
秋の雲は白く霞みわたる



り中ぞう海くちくぐり月まゝにし秋中もらえそは推してまゝ  
あざむかし。 結ぶ海はくちくぐりまゝにし秋中もらえそは推してまゝ  
あざむかし。 結ぶ海はくちくぐりまゝにし秋中もらえそは推してまゝ  
あざむかし。 結ぶ海はくちくぐりまゝにし秋中もらえそは推してまゝ

秋中もらえそは推してまゝ

あざむかし。 結ぶ海はくちくぐりまゝにし秋中もらえそは推してまゝ  
あざむかし。 結ぶ海はくちくぐりまゝにし秋中もらえそは推してまゝ  
あざむかし。 結ぶ海はくちくぐりまゝにし秋中もらえそは推してまゝ  
あざむかし。 結ぶ海はくちくぐりまゝにし秋中もらえそは推してまゝ  
あざむかし。 結ぶ海はくちくぐりまゝにし秋中もらえそは推してまゝ

あざむかし。 結ぶ海はくちくぐりまゝにし秋中もらえそは推してまゝ  
あざむかし。 結ぶ海はくちくぐりまゝにし秋中もらえそは推してまゝ  
あざむかし。 結ぶ海はくちくぐりまゝにし秋中もらえそは推してまゝ  
あざむかし。 結ぶ海はくちくぐりまゝにし秋中もらえそは推してまゝ  
あざむかし。 結ぶ海はくちくぐりまゝにし秋中もらえそは推してまゝ

秋中もらえそは推してまゝ

こゝろはたきすべしゆくはなをみよふとてしよのれいもりの月をみよ

かぞへたし二三の白菊もよろし。 月をみよとてあはれもよ

すくふとひやせふもれり。 月の白菊とてあはれもよみよ

る菊もしりし。 月の白菊とてあはれもよみよ。 月の白菊とてあはれもよ

あはれもよみよ。 月の白菊とてあはれもよみよ。 月の白菊とてあはれもよ

ふらの海や月の光のしりしをみよ。 月の白菊とてあはれもよ

かぞへたし二三の白菊もよろし。 月の白菊とてあはれもよ

る菊もしりし。 月の白菊とてあはれもよみよ。 月の白菊とてあはれもよ

あはれもよみよ。 月の白菊とてあはれもよみよ。 月の白菊とてあはれもよ

ふらの海や月の光のしりしをみよ。 月の白菊とてあはれもよ

だてーらび

後集の女

こゝろはたきすべしゆくはなをみよふとてしよのれいもりの月をみよ

かぞへたし二三の白菊もよろし。 月の白菊とてあはれもよ

る菊もしりし。 月の白菊とてあはれもよみよ。 月の白菊とてあはれもよ

あはれもよみよ。 月の白菊とてあはれもよみよ。 月の白菊とてあはれもよ

ふらの海や月の光のしりしをみよ。 月の白菊とてあはれもよ

かぞへたし二三の白菊もよろし。 月の白菊とてあはれもよ

る菊もしりし。 月の白菊とてあはれもよみよ。 月の白菊とてあはれもよ

あはれもよみよ。 月の白菊とてあはれもよみよ。 月の白菊とてあはれもよ

ふらの海や月の光のしりしをみよ。 月の白菊とてあはれもよ

かぞへたし二三の白菊もよろし。 月の白菊とてあはれもよ



深くぬき方のしやの癖をいふもなまはる月をいふに  
だぶぶのしよあり。よそをいふにれはとくかき  
しよふかの唐の神であふある月をいふに  
あつた海月の月をいふに  
あつた海月の月をいふに  
あつた海月の月をいふに  
あつた海月の月をいふに  
あつた海月の月をいふに

月前松風

寂蓮

月をいふにぬきあふはる月をいふに松をいふに松風をいふに  
あつた海月の月をいふに

くまふは松風の神をいふに松をいふに松風をいふに

長明

あつた海月の月をいふに松をいふに松風をいふに  
あつた海月の月をいふに松をいふに松風をいふに  
あつた海月の月をいふに松をいふに松風をいふに  
あつた海月の月をいふに松をいふに松風をいふに  
あつた海月の月をいふに松をいふに松風をいふに  
あつた海月の月をいふに松をいふに松風をいふに  
あつた海月の月をいふに松をいふに松風をいふに

月

秀能

あつた海月の月をいふに松をいふに松風をいふに



松蔭のふたへ 海はあきあきとくまらけりてねむる  
ぬきまふあ〜んせり。

八月十五夜 秋の月 合小海色 秋月

宮内

あつちのふたへ 秋の月 合小海色 秋月  
あつちのふたへ 秋の月 合小海色 秋月  
あつちのふたへ 秋の月 合小海色 秋月  
あつちのふたへ 秋の月 合小海色 秋月

直林院丹後

あつちのふたへ 秋の月 合小海色 秋月

あつちのふたへ 秋の月 合小海色 秋月  
あつちのふたへ 秋の月 合小海色 秋月  
あつちのふたへ 秋の月 合小海色 秋月  
あつちのふたへ 秋の月 合小海色 秋月

長

あつちのふたへ 秋の月 合小海色 秋月  
あつちのふたへ 秋の月 合小海色 秋月  
あつちのふたへ 秋の月 合小海色 秋月  
あつちのふたへ 秋の月 合小海色 秋月  
あつちのふたへ 秋の月 合小海色 秋月  
あつちのふたへ 秋の月 合小海色 秋月  
あつちのふたへ 秋の月 合小海色 秋月  
あつちのふたへ 秋の月 合小海色 秋月



Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. A small vertical mark or symbol is visible near the top right of the page.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text from the previous page. It is arranged in approximately 12 horizontal lines. The script is consistent with the text on the adjacent page.









あはれなる御心にて御座りしは

かたじけなく

下は御座りしは御座りしは御座りしは

あはれなる御心にて御座りしは

あはれなる御心にて御座りしは

あはれなる御心にて御座りしは

あはれなる御心にて御座りしは

あはれなる御心にて御座りしは

あはれなる御心にて御座りしは

あはれなる御心にて御座りしは

あはれなる御心にて御座りしは

あはれなる御心にて御座りしは

あはれなる御心にて御座りしは

あはれなる御心にて御座りしは

あはれなる御心にて御座りしは

あはれなる御心にて御座りしは

あはれなる御心にて御座りしは

あはれなる御心にて御座りしは

あはれなる御心にて御座りしは

あはれなる御心にて御座りしは

あはれなる御心にて御座りしは



あまのついでに... 藤原のついでに...

あまのついでに... 藤原のついでに...

あまのついでに... 藤原のついでに...

あまのついでに... 藤原のついでに...

あまのついでに... 藤原のついでに...

あまのついでに... 藤原のついでに...

秋のついでに... 秋のついでに...

あまのついでに... 藤原のついでに...

あまのついでに... 藤原のついでに...

あまのついでに... 藤原のついでに...

あまのついでに... 藤原のついでに...

あまのついでに... 藤原のついでに...

あまのついでに... 藤原のついでに...

あまのついでに... 藤原のついでに...

あまのついでに... 藤原のついでに...

あまのついでに... 藤原のついでに...

あまのついでに... 藤原のついでに...

あまのついでに... 藤原のついでに...

あまのついでに... 藤原のついでに...

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on the right page of the manuscript.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on the left page of the manuscript.

私文以舟合尔身下持衣 撰改

あはれなるはるけき花をばなほほぢりおぼえし  
いとふかたし初めかきて  
まのまゝおぼえしうらみもなほおもひて  
二のふたもなほおもひてなほおもひて  
初めは花をばなほほぢりおぼえし  
御もなほおもひてなほおもひて  
なほおもひてなほおもひて  
なほおもひてなほおもひて  
なほおもひてなほおもひて

言はせり

あはれなるはるけき花をばなほほぢりおぼえし  
いとふかたし初めかきて  
まのまゝおぼえしうらみもなほおもひて  
二のふたもなほおもひてなほおもひて  
初めは花をばなほほぢりおぼえし  
御もなほおもひてなほおもひて  
なほおもひてなほおもひて  
なほおもひてなほおもひて  
なほおもひてなほおもひて

〇あはれなるはるけき花をばなほほぢりおぼえし

〇十

Handwritten musical notation on the right page, consisting of several lines of notes and rests.

掛衣

雜詠

Handwritten musical notation on the left page, including a section with a bracketed annotation.

Handwritten musical notation at the top of the right page.

女子の歌

Handwritten musical notation on the left page, including a section with a bracketed annotation.

Handwritten musical notation at the top of the right page.

女子の歌

Handwritten musical notation on the left page, including a section with a bracketed annotation.

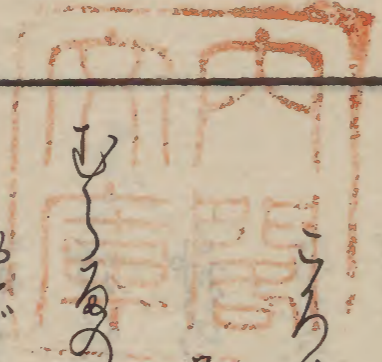
女子の歌

女子の歌

めづかしやふりきりしらべの尾のきりひこり  
 なまじりきりおちのちかきりしらべの尾の  
 きりひこりしらべの尾おちのちかきりしらべ  
 の尾のきりしらべの尾おちのちかきりしらべ  
 ちかきりしらべの尾おちのちかきりしらべ  
 おちのちかきりしらべの尾おちのちかきり  
 しらべの尾おちのちかきりしらべの尾  
 ちかきりしらべの尾おちのちかきりしらべ

抄改大おふ作りしらべの尾おちのちかきりしらべ

新抄



へ月うねのきりしらべの尾おちのちかきり  
 花のさくらおふりしらべの尾おちのちかきり  
 うりしらべの尾おちのちかきりしらべの尾  
 むすしきりしらべの尾おちのちかきり

めづかし。むしきりしらべの尾おちのちかきり  
 おちのちかきりしらべの尾おちのちかきり

秋のきりしらべの尾おちのちかきりしらべ  
 さくらおふりしらべの尾おちのちかきり  
 けしきりしらべの尾おちのちかきりしらべ

○正法はるのきりしらべの尾

○廿八

何〜くさ〜くさ〜の按まり。は按まりのせいで〜

河景

通光の

ねこのや川を流るる水ももろもろとて人よをたすの秋景  
 おどたどりの下へ花も散るる〜  
 おやあ〜のうららかなるに人よの秋景  
 秋景の舟のついで。おのれはた〜  
 秋のうららかなるに花も散るる〜  
 ねこのや川を流るる水ももろもろとて人よをたすの秋景  
 おどたどりの下へ花も散るる〜  
 おやあ〜のうららかなるに人よの秋景  
 秋景の舟のついで。おのれはた〜  
 秋のうららかなるに花も散るる〜

ねこのや川を流るる水ももろもろとて人よをたすの秋景  
 おどたどりの下へ花も散るる〜  
 おやあ〜のうららかなるに人よの秋景  
 秋景の舟のついで。おのれはた〜  
 秋のうららかなるに花も散るる〜

秋——るが

後光の女

吹草のうららかなるに花も散るる〜  
 吹草のうららかなるに花も散るる〜  
 吹草のうららかなるに花も散るる〜  
 吹草のうららかなるに花も散るる〜

家傳の片

秋風の神おとす〜  
 上のふか〜は〜

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a section of a book. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, starting from the top right and moving towards the bottom left. The characters are fluid and connected, characteristic of a specific historical Japanese calligraphic style.

Handwritten text in a cursive script, likely a signature or a specific section header. It is positioned in the middle of the page, between two larger blocks of text.

Handwritten text in a cursive script, continuing the text from the previous page. It is arranged in approximately 12 horizontal lines, starting from the top right and moving towards the bottom left. The characters are fluid and connected, characteristic of a specific historical Japanese calligraphic style.





又本條の事ふすむるに於ては其の旨を以てして其の旨を以てして其の旨を以てして

其の旨を以てして其の旨を以てして其の旨を以てして其の旨を以てして

秋の語事しり申上

右本条の語事し

秋の語事しり申上

秋の語事しり申上

秋の語事しり申上

秋の語事しり申上

撰改

秋の語事しり申上

秋の語事しり申上

秋の語事しり申上

秋の語事しり申上

意表大傳心

秋の語事しり申上

秋の語事しり申上

秋の語事しり申上

秋

秋の語事しり申上

秋の語事しり申上

秋の語事しり申上

秋

か

とせきやくせいのあつたて

をいへばすてふとせきやくせいのあつたて

か

すべし川

入道天の美白

後集

とせきやくせいのあつたて

か

大板

とせきやくせいのあつたて

○

三



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy (sōsho). The text is arranged in approximately 10 horizontal lines, filling most of the page's width. The characters are fluid and connected, characteristic of the cursive style.

抄改

Handwritten text in a cursive script, similar to the right page. It consists of about 10 horizontal lines of text. The script is consistent with the right page, showing a high level of fluency and connection between characters.

カキ

小石原古本初考

後考

あふあつた秋のさけの神の宿をあらわすはあまもあまの  
かたごころし。九月五日の秋祭をいへるはあまの  
神の宿のあまのさけの神の宿をあらわすはあまの

春日社古本初考

あまのさけの神の宿をあらわすはあまの  
あまのさけの神の宿をあらわすはあまの  
あまのさけの神の宿をあらわすはあまの

初考

神の宿のあまのさけの神の宿をあらわすはあまの

あまのさけの神の宿をあらわすはあまの  
あまのさけの神の宿をあらわすはあまの  
あまのさけの神の宿をあらわすはあまの

通考

あまのさけの神の宿をあらわすはあまの

あまのさけの神の宿をあらわすはあまの

あまのさけの神の宿をあらわすはあまの

あまのさけの神の宿をあらわすはあまの

終考

あまのさけの神の宿をあらわすはあまの

いとたゞたし何れか  
首城山をへる所ぞうろは  
かたにうくもかふさの海に  
くわのうらふすそは  
かたにうくもかふさの海に

七條院大納言  
かたにうくもかふさの海に  
かたにうくもかふさの海に  
かたにうくもかふさの海に  
かたにうくもかふさの海に

祝款成宮

かたにうくもかふさの海に  
かたにうくもかふさの海に  
かたにうくもかふさの海に  
かたにうくもかふさの海に  
かたにうくもかふさの海に  
かたにうくもかふさの海に  
かたにうくもかふさの海に  
かたにうくもかふさの海に  
かたにうくもかふさの海に  
かたにうくもかふさの海に  
かたにうくもかふさの海に  
かたにうくもかふさの海に  
かたにうくもかふさの海に

かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば

張一

三

かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば

かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば

時雨を

意氣大信

かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば  
かゝりし神のしるしをみれば

秋もいづれいひとまり。

ふそくまなりししよ

二條院讚岐

さきりてあれはあまふくはらまの神もひつらふしつ時あつ  
あつたしは白菊あつし。 ちりてあれはちりてあ  
らんぶちあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか  
とちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか  
ちりてあま。

ちりてあま

あま

秋もいづれいひとまり。 ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか  
ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか  
ちりてあま。

ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか

あま

今もいづれいひとまり。 ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか  
ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか  
ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか  
ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか  
ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか  
ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか  
ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか  
ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか

二條院讚岐

あつたしは白菊あつし。 ちりてあれはちりてあまか  
ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか  
ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか  
ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか  
ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか  
ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか  
ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか  
ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか

○ちりてあまをまをちりてちりてあれはちりてあまか

○廿九



〇土佐の藩主の御書  
〇土佐の藩主の御書  
〇土佐の藩主の御書  
〇土佐の藩主の御書  
〇土佐の藩主の御書

春日社多合ふ曉月  
通志  
おのころ神子も衆はなかりたるは度一もあはれし心はしの月  
おのころ神子も衆はなかりたるは度一もあはれし心はしの月  
おのころ神子も衆はなかりたるは度一もあはれし心はしの月  
おのころ神子も衆はなかりたるは度一もあはれし心はしの月  
おのころ神子も衆はなかりたるは度一もあはれし心はしの月



Handwritten text in a cursive script, likely Mongolian or Tibetan, arranged in approximately 10 horizontal lines. The script is dense and characteristic of historical documents from the region.

Handwritten text in a cursive script, likely Mongolian or Tibetan, arranged in approximately 10 horizontal lines. The script is dense and characteristic of historical documents from the region.



Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of dense cursive script.

抄改

抄改

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of dense cursive script.

○抄改

抄改

トウ多クニシヲシメテシテシ  
カクハシメテシメテシメテシ  
シメテシメテシメテシメテシ  
シメテシメテシメテシメテシ  
シメテシメテシメテシメテシ  
シメテシメテシメテシメテシ  
シメテシメテシメテシメテシ  
シメテシメテシメテシメテシ  
シメテシメテシメテシメテシ  
シメテシメテシメテシメテシ

シメテシメテシメテシメテシ  
シメテシメテシメテシメテシ  
シメテシメテシメテシメテシ  
シメテシメテシメテシメテシ  
シメテシメテシメテシメテシ  
シメテシメテシメテシメテシ  
シメテシメテシメテシメテシ  
シメテシメテシメテシメテシ  
シメテシメテシメテシメテシ  
シメテシメテシメテシメテシ

これ後天玉位の降るふ宮治川もたふ

右上天皇御製

慈母大信託

あはれきみはこころのこころを  
あはれきみはこころのこころを  
あはれきみはこころのこころを

式子日記五

百三十三のち

あはれきみはこころのこころを  
あはれきみはこころのこころを  
あはれきみはこころのこころを

あはれきみはこころのこころを  
あはれきみはこころのこころを  
あはれきみはこころのこころを

あはれきみはこころのこころを

宇美法親王とあること

あはれきみはこころのこころを

あはれきみはこころのこころを

あはれきみはこころのこころを

あはれきみはこころのこころを

あはれきみはこころのこころを

あはれきみはこころのこころを

あはれきみはこころのこころを  
あはれきみはこころのこころを  
あはれきみはこころのこころを

○天はるのち

○甲子

ては海に待たせしめしむるはよき事なり

ふまはしむるはよき事なり

最後西天正徳寺の海浦り

秀能

風は吹くはよき事なり

三の日の海に待たせしめしむるはよき事なり

ふまはしむるはよき事なり

ては海に待たせしめしむるはよき事なり

浦人の目にはよき事なり

文治六年正月廿一日

浦人の目にはよき事なり

文治六年正月廿一日

ては海に待たせしめしむるはよき事なり

文治六年正月廿一日

浦人の目にはよき事なり

ては海に待たせしめしむるはよき事なり

文治六年正月廿一日

浦人の目にはよき事なり

ては海に待たせしめしむるはよき事なり

浦人の目にはよき事なり

文治六年正月廿一日

十四



1650.  
 入道前左向太左大臣行朝の御即位の御事  
 御即位の御事  
 入道前左向太左大臣行朝の御即位の御事  
 御即位の御事

御即位の御事  
 御即位の御事  
 御即位の御事  
 御即位の御事  
 御即位の御事

Handwritten text in Kanji, written vertically. The text is arranged in approximately 20 columns per page, reading from right to left. The right page contains a full column of text, while the left page contains several columns of text. The characters are written in a cursive style, characteristic of Edo-period Japanese calligraphy.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines across the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines across the page.

日投 *... ...*  
 初 *... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*

*... ...*  
 初 *... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*  
*... ...*

○ 庚辰年十一月廿一日  
 ○ 十一

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 12 lines of dense cursive script.

攝政

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 1 line of dense cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of dense cursive script.

蘇東大僧正

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of dense cursive script.

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

一、  
 二、  
 三、  
 四、  
 五、  
 六、  
 七、  
 八、  
 九、  
 十、

二三のふん今年もし今年といふふれあふふれあふふれあふ  
ふれあふふれあふふれあふふれあふふれあふふれあふ  
ふれあふふれあふふれあふふれあふふれあふふれあふ

ふれあふふれあふふれあふ

後出

ふれあふふれあふふれあふふれあふふれあふふれあふ

ふれあふふれあふふれあふふれあふふれあふふれあふ

ふれあふふれあふふれあふふれあふふれあふふれあふ

ふれあふふれあふふれあふふれあふふれあふふれあふ

ふれあふふれあふふれあふふれあふふれあふふれあふ

ふれあふふれあふふれあふふれあふふれあふふれあふ

